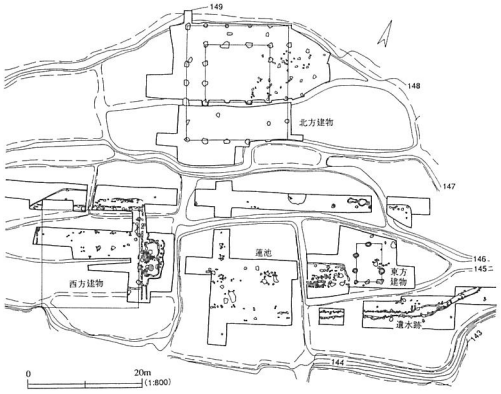
広瀬廃寺跡　（広瀬）

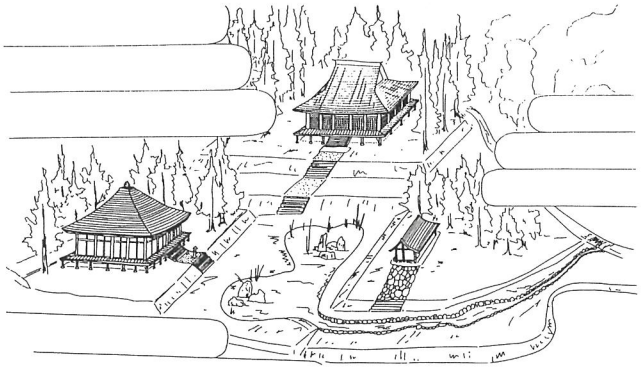
広瀬廃寺は、古代末から中世（11世紀～13世紀）の寺院跡である。昭和44年（1969）に建物の土台石である礎石が発見され、昭和54年（1979）に発掘調査がおこなわれた。この寺院跡は、平安時代に流行した浄土思想の影響を受けて建立されたものらしく、蓮池と呼ばれる池跡を中心に北、西、東の方向に三棟の礎石建物を配置している臨池式伽藍である。

池跡には大小の自然石が点在し、規模形態や当地方の豪族、小鴨氏との関係は不明である。

広瀬廃寺は、中世の寺院として「拾遺往生伝（※じゅういおうじょうでん）」に書かれている「伯耆国弘瀬寺（ほおきのくにひろせでら）」と推定されている。寺院跡周辺には、沢山の石造物が分布している。

（出典：『広瀬廃寺跡』倉吉市教育委員会）





想定復元図

（注）

納金山：広瀬廃寺跡の裏山

拾遺往生伝：平安後期の95人の聖人、上人の往生記で、その中に円空禅師の寺として弘瀬寺の記述が見られる。